やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」（青森）発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	13 / 1998 / 36
タイトル	青森県にオオモンシロチョウ出現
著　者　名	Ebina

時の話題

青森県にオオモンシロチョウ出現

Ｅｂｉｎａ

1996年８月22日、東奥日報１面に『キャベツの大害虫オオモンシロチョウ小泊・袰内で捕獲　本州上陸を初確認　地中海原産　大陸から飛来？』と報道された。

昨年８月20日、ヨーロッパの蝶という印象の強かったオオモンシロチョウが本県津軽半島の小泊で津軽昆虫同好会員によって採集されたのが、そもそもの始まりである。

オオモンシロチョウ　（シロチョウ科モンシロチョウ属）

原産は地中海方面といわれるが飛翔力が強く世界的に分布が広がっている。ヨーロッパからドーバー海峡を渡ってイギリスに侵入したという報告例もある。1971年にはチリに進入し、野菜に大打撃を与えた。また、日本鱗翅学会によると、1993年の調査では沿海州方面にはいなかったが、昨年の調査で初めて確認された。ここ数年でアジア大陸東側まで一気に広がったらしいという。

我が国で最初に発見されたのは、本県で採集されるほんの２ヶ月半前の６月８日のことで、北海道岩内郡共和町で採集されたものであるが、既に北海道各地に広がっていて、津軽海峡は一飛びで本州に渡る可能性があるし、またキャベツの害虫であるばかりでなく、同じアブラナ科の大根、白菜、カリフラワー、ブロッコリー、ネワサビなどの野菜に広く被害を及ぼす恐れがある。

特徴　モンシロチョウの羽のさしわたし（開長）が48mmであるのに比べ57mmと１cm近く大きい。前の羽の外縁部の黒い帯がＬ字型になっているのが大きな特徴。また、雄は前の羽の黒い丸紋がなく、雌はモンシロチョウ（茶色がかった白色）
より白いという。また、モンシロチョウはキャベツなどの植物に１個ずつ卵を産み付けるが、オオモンシロチョウは数個から100個まとめて産み付け、幼虫が集団で野菜を食い荒らすため、横浜植物検疫所では“特定重要病害虫”に指定し、厳しい検疫を実施しているという。

県農業指導課は今年（1996）９月２日、８月30日に県内全域で一斉調査したオオモンシロチョウの発生状況をまとめた。その結果、５市町村６地点（小泊村鮫貝、むつ市川守町、大畑町釣屋浜、大間町奥戸、風間浦村易国間）から疑わしい幼虫49匹とさなぎ１匹が見つかり、すべてオオモンシロチョウと判明した。遂に本州に上陸したオオモンシロチョウは、どのような生態を見せるのだろうか。

お断り　　本来この記事をまとめるのは、実際に手がけた一人である31代の市田忠夫氏が適任なのであるが、氏は多忙であり、締め切りの期日も迫っていることから、この発見の中心となった「津軽昆虫同好会」が発行している「Tsugaru－Konchu」No.67,69号と新聞記事からこの事件をまとめてみたのでお許しいただきたい。（チョウの開長は袰内で得られた１頭づつの雌のもので、実際は多少の幅があります。）